

2017年(平成29年)3月31日

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・技の移り変わりを、当時の環境の中で、お客様が直接体験することができます。

開館時間 9:00~16:30
休館日 月曜日(休日の場合は開館し、翌日休館)
年末年始(12月25日~2017年1月1日)
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円
※()は20人以上の団体料金
※中学生以下と65歳以上無料
※障害者と介護者1名は無料

大木戸

編集・発行
千葉県立房総のむら 指定管理者
公益財団法人 千葉県教育振興財団
房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL.0476-95-3333
<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

房総のむらでは平成十六年度にボランティア制度を導入し、今年度で十二年目を迎えました。現在六十五名の方々が「ツアーガイド」「自然ガイド」「昔のくらしボランティア」「昔のあそびボランティア」「緑のボランティア」「演目ボランティア」の7種類に分かれ、お客様と博物館を結ぶ架け橋として、活動していただいています。

本展覧会では、ボランティアの活動開始当初から今までのあゆみをパネルでふり返るとともに、現在の活動の様子を写真を中心に紹介しています。あわせて、各種ボランティア活動を通じて嬉しかったことや、お客様に勧めたいことなどをインタビューし、掲出しております。

これからも博物館と学校・地域の方々との連携に力を貸していた

平成28年トピックス展

むらのボランティア活動展

会場：風土記の丘資料館2階

会期：平成29年3月11日(土) ~ 6月11日(日)



さくらまつりでのガイド風景

だき、親しみやすい、ぬくもりのある博物館を、共に目指していきたいと思っております。

さて、来月から新しい年度を迎える房総のむらですが、四月一日より行われる「さくらまつり」では、自然ガイドボランティアの方々による「サクラいろいろガイド」がごさいます。解説を聞きながら館内に咲くさまざまな種類の桜を眺めれば、より一層お花見を楽しむことができますでしょう。

皆様お気軽にご参加ください。

(広報・普及グループ 吉田)



四月一・二日は「さくらまつり」を開催します。大道芸やさくらにちなんだ体験のほか、館内の桜でお花見と、春を満喫できるおまつりです。

館内にはソメイヨシノをはじめ、ヤマザクラ、ウコンザクラ、オオヤマザクラ、コヒガンザクラ、ヤエビニシダレザクラ、カンザンサクラ、ジュウガツザクラなどの桜があり、「サクラいろいろガイド」では、それぞれの特徴や館内での分布を知ることができます。

美しい里山の風景と伝統的な日本家屋、そして日本を象徴する花である桜を一度に楽しむことができます。思い出に残る一枚をカメラに収めて来てください。

(広報・普及グループ 蒲生)

平成29年

さくらまつり

下総の農家 新規演目 唐辛子の飾り作り

房総のむらでは、二年前から十七種類の伝統（江戸）野菜を栽培していますが、「八房唐辛子」もその中の一つです。

唐辛子は、中南米が原産地で、コロンブスにより世界中に広まった香辛料です。日本へはポルトガルから伝わったもので、「唐」は中国の唐ではなく、外国を指しています。

「八房唐辛子」（写真1）は、小さな果実が葉の上で十個程房状に集まり、天に向かって実ることから、収穫が楽であり、江戸時代に七味唐辛子用に栽培されていました。



写真1 八房唐辛子

飾り作りでは、縦長と円形の二種類を用意してみました。縦長タイプのもは、唐辛子一本ずつを稲わら四本の中に挟み込んでいき（写真2）、最後にわらの先端を



写真2 縦長タイプ

縄として縛うことで完成します。もう一つは、わらを縛って、円形にし、燃りの間に唐辛子を挟み込むもので、二つを作る所要時間は凡そ、二時間です。

これまでも、晩秋から翌春にかけて販売だけに行っていました。が、「作ってみたい」とのお客様の声もあり、体験演目にしたものです。

完成品は、飾りものとして使い、勿論、料理に使うこともできますので、是非お試しあれ！

★体験日：十一月十九日（日）
（農家グループ 藤崎）

商家 木工所新規演目 光るどろだんご作り

木工所では、毎年十月に「左官の技」を実施し、日本に古くから伝わる土壁の魅力を、香取市の左官職人（大崎英雄氏）の実演と体験を通して紹介し、毎回大人から子どもまで、多くのお客様に喜んでいただいております。

左官といっても、現在ではコンクリートや珪藻土などを塗る仕事、住宅建築の一場面で登場するくらいのため、左官を「さかん」と読めない若者も増えていきます。

土を扱う事に関しては誰にも負けない職人ですが、例えば、一棟の土蔵を建築する場合、基礎を打って木組みを組み、柱と柱の間



完成したお飾り二種

に竹を井桁に組んで、わら縄をからげ、壁の芯にします。この竹の芯を「木舞（こまい）」といい、ここから左官仕事が始まります。



写真1：土蔵の壁見本。竹木舞にわら縄を縛っていく（大崎氏）

この芯に稲わらを刻んで入れた粘土を塗り付けます。これが「粗塗り（あらぬり）」といいます。土蔵の場合は壁が厚いので、塗ってから半年ほど乾かします。土壁は霜が大敵なので、冬は塗りません。春になったら粗塗りの壁の上に、山砂と細かい稲わらを混ぜた粘土を塗ります。これが「中塗り（なかぬり）」といいます。

土蔵の場合、更に「上塗り（うわぬり）」という仕上げ塗り、漆喰を使います。黒い部分には、油煙という菜種油を燃やした煤に、石灰を混ぜて「黒ノロ」作り、薄く

OHKIDO

薄く塗って仕上げます。
 このように、一棟の土蔵を建てるには、約三年の歳月が必要になります。
 毎年の左官体験では、粗塗りと中塗りの体験のみでした。そこで、二十九年度は、新たに上塗りの体験ができるように、演目を作りしました。それが「光るどろだんご」作りです。
 どろだんごは子どものころに作った記憶がある人が多いのではないのでしょうか。ですが、このどろだんごは違います。鉄球のようにピカピカになるのです。作ってみたいと思いませんか？
 では、なぜ光るのか。それは、漆喰を塗ることで、通常のどろだんごよりも表面の粒子が整えられ、さらにそれを磨くことで、粒子が



写真2：土蔵の壁見本。竹木舞にわら縄を縛っていく（大崎氏）

同じ方向に並び、光を反射するようになるからだそうです。



写真3：磨いたどろ団子。これにさらに刃をかけて磨くと...

磨き上げたどろだんごは、輝石のような美しさがあります。もちろんお持ち帰りできますので、家で飾ってみてはいかがでしょう。体験指導は佐原の左官職人さんです。お楽しみに！
 ★体験日：八月十一日（金）
 小学三年生以上を対象とします。
 汚れてもよい服装でご来館ください。
 （商家グループ 芝崎）

★左官の技の体験日

十月八・九・十四・十五日

参加者はタオル持参。雨天時は変更する場合があります。

商家 畳の店新規演目 「畳のストラップ作り」

今では畳の部屋のない家庭も多いのではないのでしょうか。この演目は、「畳のコースター作り」とともに畳の歴史や文化に触れる入口になればと考案したものです。
 畳表の原料であるイグサという素材の暖かさや香りなどを味わいながらストラップ作りを楽しめます。コースターより小さいので見た目はかわいらしく簡単にできそうに思えますが、縁（へり）や畳表の折り目をしっかりとつけるところは意外と難しいのです。それでも、自分で選んだ縁用の千代紙や布が、畳表のモスグリーンにとっても映えて、きれいでかわいらしいストラップとして出来上がってみると、思わずニンマリと笑みがこぼれてしまいます。世界に二つとないマイストラップ、そんな「畳のストラップ作り」は、「房総のむら」だからこそその体験といってもよいでしょう。
 畳の店では、このほかにも七島藺（しちとうい） || 琉球表（りゅうきゅうおもて）と呼ばれるイグサを編む「畳表作り」の体験（無料）もできます。また、畳表を手縫いによって作る「畳の敷物作り」や、今ではめったに見られなくなりましたが、現役の畳屋さんの手縫いによる畳の表替えの実演「畳作り」（年4回）も見ごたえがあります。

★体験日：四月十五〜二十二日、五月十七・十八・二十七・二十八日、十一月二十一〜二十六日、一月七・十・十四日、二月十五・十七・十八日（休館日除く）
 （商家グループ 福田）



掌に収まるサイズ。い草の良い香りがします。

風土記の丘の顔・かお・貌 埴輪群像のお出迎え

資料館へ来る方のほとんどは、大木戸から入館しています。にぎやかな商家の町並みを抜けて、街はずれの堀割広場に出ると、風土記の丘資料館のゲートが見えてきます。その先は昼なお暗く、小さい子供が怖がるような林で、「地図や看板を見ても、その奥に資料館や堅穴住居が本当にあるのだからと不安になる」という来館者の声。そこで、去年はまず、鉄パイプで組んだ地味で無骨なゲートに埴輪の絵を入れたレモンイエローのカバーを被せました。埴輪の顔に描かれた赤の彩色が「鼻血」に見えるという感想もありますが、明るい雰囲気になりました。



資料館入口の台の上に並ぶ形象埴輪。
ユニークな姿で来館者を出迎えます。

次に、「資料館のエントランスは、中が暗く寂しい雰囲気で、開館しているのかどうか、わかりにくい」という問題に取り組みました。資料館への長い道のりを歩いて、ようやく扉の見えるところまで来ると、右に階段があるの、上ってみる人が結構います。そこはコンクリートに囲まれた殺風景なテラスですが、実は喫茶室に面したおしゃやかな空間として設計されたものです。喫茶室は開館以来、資料閲覧室として窓が塞がれていたの、テラスの存在意義もなくなっていたわけですが、高圧洗浄機で壁の黒ずみを取って、パラソルとテーブルを置いて見ると、風を感じて休める空間になりました。

年明けからは、入り口通路で埴輪たちが来館者をお出迎えしています。みなさんが足を止めて「部屋の中ではどんなモノに出会えるかな」と思ってくれたら、しめたものです。ちよっとした撮影スポットになりました。それから、古代衣装も資料館のニューフェイスです。4月から少しずつ資料館の「かお」をお色直しして、来館

者の笑顔を増やしたいと思います。

(風土記の丘資料館 白井)



◆編集後記◆

館内のソメイヨシノの蕾がふくらみ、もうすぐ開花宣言ができそうな雰囲気になってきました。お客様も開花を楽しみにしているようです。さて、今号ではお花見に負けないくらい楽しみな「新規演目」やリニューアル情報を掲載しました。演目によっては、まだ予約受付の開始日になっていない演目もございますが、皆様からのご予約およびご来館をお待ちしております。
(蒲生)

上半期の主な予定

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 3月11(土)～
6月11日
(日) | トピックス展「むらの
ボランティア活動展」 |
| 4月1(土)・2日
(日) | さくらまつり
春のまつり |
| 5月3日(水・祝)
～
5日(金・
祝) | 第1回考古学講座
「西日本の古墳
(仮)」 |
| 5月21日(日) | 房総座(柳家三三落語
会) |
| 6月11日(日) | 大道芸入門 |
| 6月18日(日) | 「常磐道の遺跡展
(仮)」 |
| 7月15日(土)～
9月24日
(日) | 教職員を対象とした
博物館研修会 |
| 7月27日(木)・
8月3日(木) | むらの縁日・夕涼み
(午後8時まで延長開
館) |
| 8月12日(土)・
13日(日) | 第2回考古学講座 |
| 8月20日(日) | |